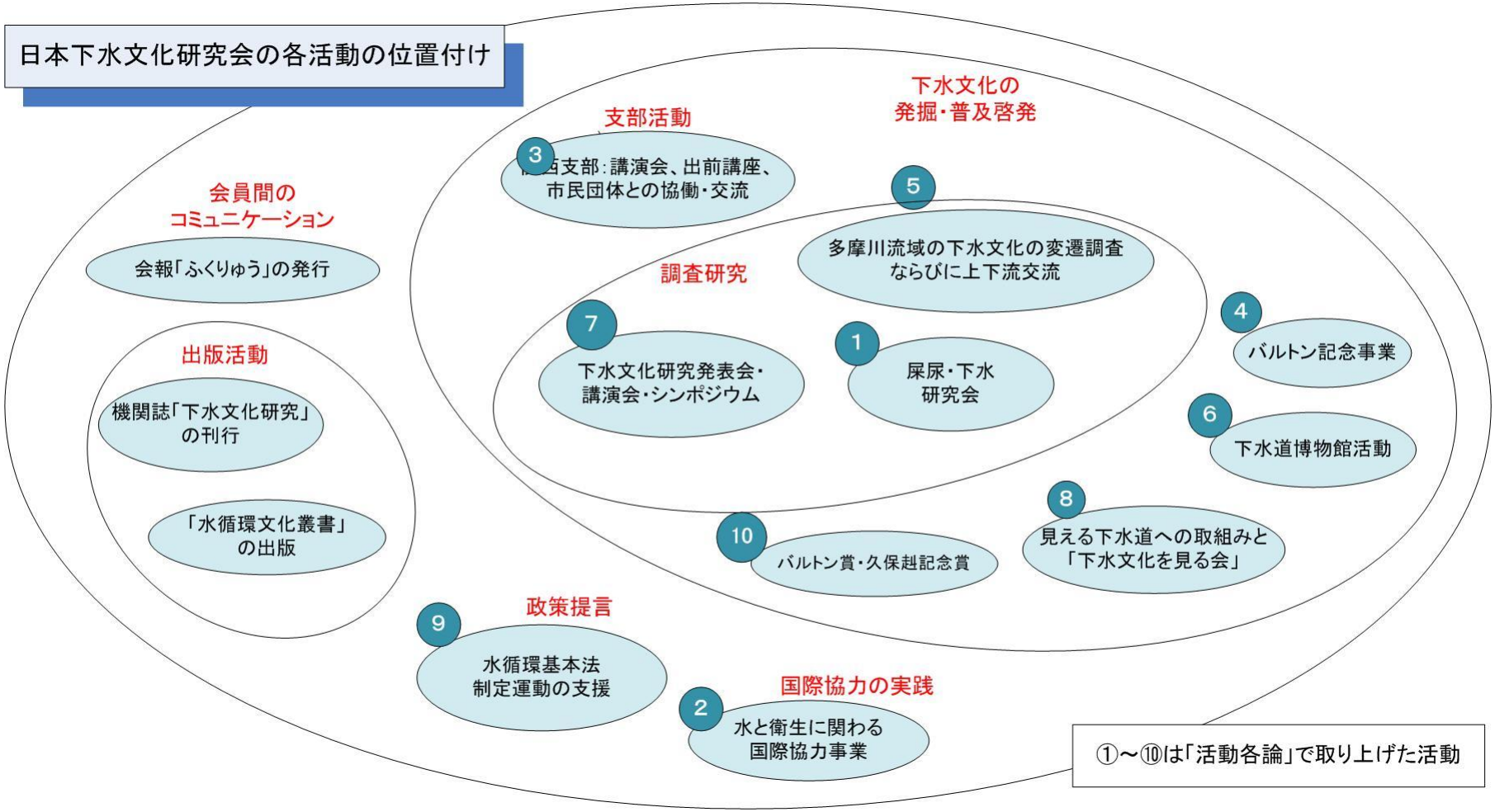
日本下水文化研究会の各活動の位置付け



活動名：屎尿・下水文化に関する研究・情報収集

上位目標	屎尿・トイレに関わる歴史や技術を伝え、屎尿に関する関心を喚起する。
活動目的	屎尿・トイレに関わる歴史や技術について、情報交換を図るとともに、記録として残す。
実践内容	「屎尿・下水研究会」（下水文化研究会の分科会）メンバー（最も多いとき30 名余名）ならびに、メンバーの紹介により外部者を招いて、講話会を定期的に開催。講話会の内容は、先達からの聴き取り、古文書の解説、歴史資料の解読、技術変遷史など多岐にわたる。 講演録を業界雑誌へ投稿、さらに集積された内容を一般図書として編集・出版。
活動実施方法	実施体制；「屎尿・下水研究会」メンバーによる講話、企画、図書編集。 協力者・協力組織：研究会メンバーより招待された講話者
成果物	屎尿・下水研究会の活動成果として、 「トイレ考・屎尿考」(2003)、 「ごみの文化・屎尿の文化」 （2006、廃棄物学会ごみ文化研究会との共同編集)、以上技報堂出版 「トイレ 排泄の空間から見る日本の文化と歴史」（ミネルヴァ書房、2016） 「屎尿・下水研究会」の活動のほか、以下の下水文化叢書を刊行 「江戸 神田の下水」、 「川柳・江戸下水」、 「江戸の下水道を探る＜享保・明和・安永の古文書から＞」、 「江戸下水の町触集」、 「便所異名収攬」、 「歳時 下水道略史」、 「近世三都の水事情 大坂・江戸・名古屋」
成果の波及	波及の対象：一般市民 波及効果：屎尿・トイレ・排泄に関する個人的、社会的意味の再確認（衛生、保健、資源価値、尊厳）
継続するうえでの課題	利便性向上、社会インフラ整備により屎尿・トイレへの関心の希薄化 活動を担う人材確保

活動名：海外技術協力事業

上位目標	衛生的な生活環境を全ての人に
活動目的	循環の知恵の移転：屎尿の農地還元、バイオガスの回収・利用 社会的受容を含めた適正技術の検証 健康リスク削減のための行動変容の促進 自立的管理の持続可能性確保
実践内容	対象：バングラデシュ農村域、都市スラム 農村域：エコサントイレの普及 都市スラム：共同トイレを含めた生活改善 共通：安全な給水設備・衛生環境の普及
活動実施方法	現地支部を設立しスタッフ雇用あるいは現地 NGO をカウンターパートとする活動実践、現地ステークホルダーへの協力要請、情報共有
成果	住民参加型社会開発プロジェクトのプロセス ①適正技術の評価と選択、②社会的準備（社会関係資本の脆弱さの克服、受益者による問題認知、コミュニティ構成者間の信頼性向上、行動変容の促進）、③コミュニティの参加による活動実施、④コミュニティ組織の形成・持続可能な管理の仕組み （酒井：市民活動による水環境分野での国際貢献、水環境の事典） 国際協力を学ぶフィールドの提供（インターン受け入れ）
成果（経験）の波及	上記のプロセスを実践したものの、プロジェクトが目標とするプロジェクト後の施設機能の維持、管理体制の持続に成功した例はない。しかしながら、受益者と対峙しながらの失敗経験は ODA 関係者と共有する意味は小さくないと考えている。 若いジェネレーションとの接点を持つことによる国際協力への理解・参加促進への寄与（日本社会へのフィードバック）
継続するうえでの課題	現地でのプロジェクト後の衛生習慣、施設保全、管理体制の継続 これらをフォローアップする体制